

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●3日のWTI原油は、前日比0.4ドル高の60.88ドルとなった。  
石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が11月も増産を継続するとの観測が浮上し、相場は週初から一貫して下落。前日には約5カ月ぶりの安値に沈んでいた。

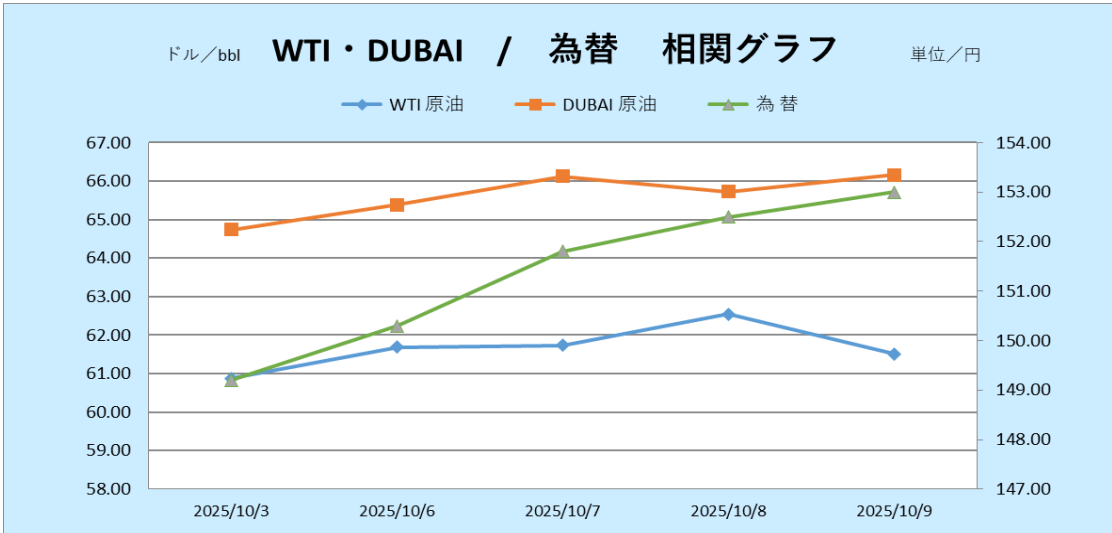
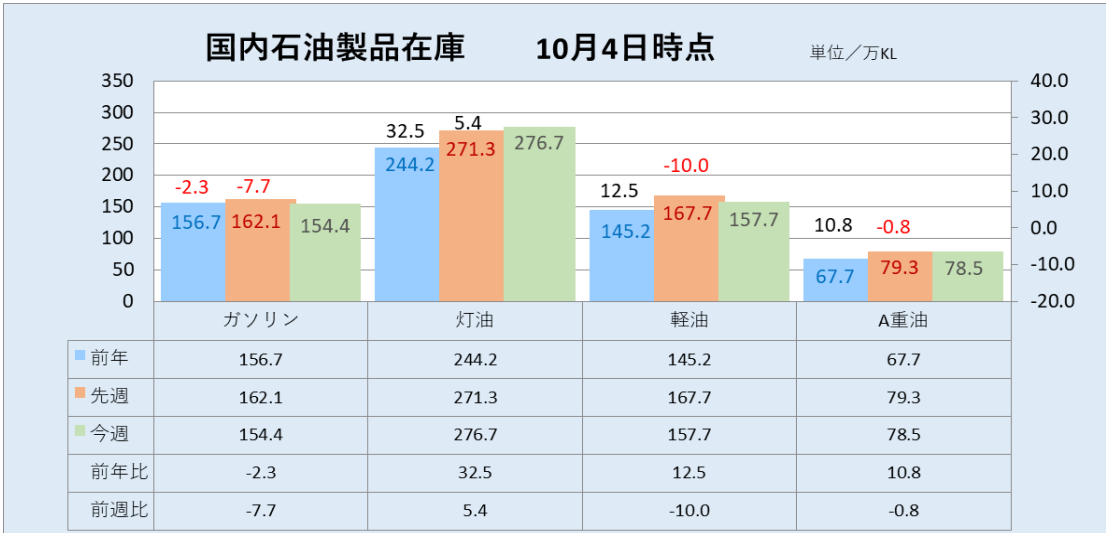
●6日のWTI原油は、前日比0.81ドル高の61.69ドルとなった。  
「OPECプラス」の有志8カ国は5日開催のオンライン会合で、11月の生産方針について協議。原油生産量を前月と同じく日量13万7000バレル増やす方針を決めた。自主減産分の縮小をさらに進めた形だが、10月の2～4倍に相当する規模で合意する可能性があるとの見方が浮上していたため、想定より小幅な増産決定を市場は好感。

●7日のWTI原油は、前日比0.04ドル高の61.73ドルとなった。  
「OPECプラス」の有志8カ国は5日にオンライン会合を開き、11月の原油生産量を日量13万7000バレル増やす方針を決定。想定よりも緩やかな増産ペースを受け、相場は前日清算値ベースで1%超高となった。

●8日のWTI原油は、前日比0.82ドル高の62.55ドルとなった。  
ウクライナとロシア両国の停戦協議に目立った進展がない中、欧米諸国によるロシア産原油輸出をめぐる制裁強化の動きを背景にエネルギー供給への警戒感が強まり、原油が買われた。

●9日のWTI原油は、前日比1.04ドル安の61.51ドルとなった。  
パレスチナ自治区ガザでの戦闘を巡り、イスラエルとイスラム組織ハマスは9日、米政府の和平案の第1段階で合意した。ハマスが拘束している人質を全員解放し、イスラエル軍がガザの一部区域から撤退する。合意は中東和平交渉における大きな進展と受け止められ、地政学リスクが後退するとの観測が台頭。

10月10日 12:00現在 WTI原油 61.51ドル 為替 1ドル 154.09円



【次回価格変動予想】

|      |   |           |
|------|---|-----------|
| ガソリン | ➡ | 1.0 ～ 1.5 |
| 灯油   | ➡ | 1.0 ～ 1.5 |
| 軽油   | ➡ | 1.0 ～ 1.5 |
| A重油  | ➡ | 1.0 ～ 1.5 |
| LSA  | ➡ | 1.0 ～ 1.5 |

※原油コスト「1.0円～1.5円」  
※補助金(ガソリン・軽油)「10.0円」前週比±0円  
※現時点での予測です。

【市況総括】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-3.5円」、補助金は、「±0円」、都合「全油種 -3.5円」の改定となった。

《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「1.0円～1.5円」、補助金は「±0円」で、都合「1.0円～1.5円」の改定予測となっている。

【次世代エネ コラム】

＜ 伊藤忠商事、東レなどとアンモニアの供給拠点整備へ 船舶燃料向け ＞

伊藤忠商事は25日、東レなどと、国内で船舶の燃料用アンモニアを貯蔵・供給する拠点を整備する覚書を結んだと発表した。東レが愛知県にもつ工場にあるタンクなどを活用する見通し。2030年前後の拠点の利用開始を想定する。アンモニアは燃やしても二酸化炭素(CO2)が出ない。クリーンな燃料として需要の拡大が見込まれている。

伊藤忠が全体を取りまとめ、東レは化学事業を通じて培ったアンモニアを取り扱うノウハウなどを提供する。船舶の管理などを手掛ける上野トランステック(横浜市)が自治体や関係当局との調整などを支援する。具体的な事業形態は今後検討する。

整備する拠点は、船舶に燃料を供給する専用船「バンカリング(船舶燃料供給)船」がアンモニアを調達する施設となる。伊藤忠などはアンモニアの取り扱いで重要となる安全性の検証や、関連する許認可の取得も進める。

伊藤忠は6月、佐々木造船(広島県)などとバンカリング船の建造に関する契約を結んだ。28年の実用化を見込む。スペインとエジプトでも各地の企業と組んで燃料供給拠点の開発を進める方針。今回整備する国内拠点も含めて、アンモニアのサプライチェーン(供給網)構築をめざす。